



# 森のなかま

2024年3月号

NO. 189 (継続334号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史  
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

## 第15回森林文化講演会 『森と一緒に生きてみる・森のめぐみを考える』

講師：『100年の人生に草木のめぐみ』等の著者 谷田貝光克氏

日時：令和6年2月4日(日)14:00~15:30 場所：藤沢市 相澤第一ビル

<取材11期 松本 保 (\*印写真はスクリーン画面より切り取り)>

谷田貝先生には当会会報の連載『森のめぐみ』を55回/10年の執筆して頂いておりました。今回は森林文化部会主催の講演会をお願いして茨城県守口市から藤沢市迄お出で頂いての講演会でした。2月6日にはインドネシアの方に行かれるとの多忙な中での講演をお願い致しました。唯々感謝です。参加者は募集定員70名でほぼ満席となりました。

**森と一緒に生きてみる = 森のめぐみを考える =** をメインテーマで講演して頂きました。

○最初に『日本は木の国 森の国』素戔嗚尊(すさのおのみこと)の言葉から引用をされ、韓郷の島には、金、銀がある、ここにわたるには舟がないといけない。そこで、ひげを抜いて撒いたらスギになった。胸毛→ヒノキ、尻の毛→マキ、眉の毛→クスノキ。スギとクスは舟にせよ、ヒノキで宮を作れ、マキで棺を作れ。日本の森林率は世界有数の68.5%、しかし森林面積では23位。ロシアは36倍、米国12倍、中国8倍であること。そしてドイツ林業が良いお手本であること

⇒ 日本は**森林率で慢心してはいけない、そしてもっと利用しなければ** で講話は始まりました。



### ◆ 日本の森林の推移と現状について

戦後復興→拡大造林針葉樹 S20~30年→燃料革命(薪炭から化石燃料へ)→木材輸入の自由化 S39年(安い外材)→木材自給率低下 S30年 94.5%→H12年 18.2%→そして国内森林林業の再生と回復プラン(コンクリートから木の社会へ)農水省 H21年→R3年 41.1%と回復傾向

### ◆ 森林の働きについて ⇒ 森林はこんなにも役に立つ

環境資源としての機能 70兆円/年。農業の多面的機能とその貨幣価値おおよそ8兆円/年  
表面浸食防止/水質浄化...二酸化炭素吸収/化石燃料代替エネルギー 等々

### ◆ 森林の恵みを利用しよう ⇒ 森林樹木からの精油採取などうまく利用しよう

・ほとんどが利用されていない林地残材(例:スギやヒノキの葉っぱや枝など)

林地残材 年間利用率 9%から目標30%(バイオマス等)

・スギ ヒバ などの香りの生理活性、いま、人気絶頂のクロモジの香り

胃潰瘍を抑える ・咳を抑える ・睡眠効率を高める 等...⇒快適環境創出



\*クロモジの楊枝

特用林産物の利用

- ・きのこ類 ・樹実類(クリ、クルミ・・・)・樹脂 樹液 (ウルシ)・木ロウ(ハゼ、ナンキンハゼ)
- ・山菜(ワラビ、ゼンマイ、ワサビ・・・)・薬用植物(オウレン、キハダ・・・)・花卉類(シキミ、ラン・・・)
- ・桐 ・竹、タケノコ・木炭・木酢液 ・精油 ・タンニン(カキシブタンニン・・・) ・色素

そして講演後半では

◆ 木を植えて、利用しよう 外国等での指導等活動の紹介(炭の木植え隊)

- ・タンザニア 薪、炭を使用。燃料の95%が木炭→効率の良い炭の作り方、苗の育成/植樹
- ・ラオスでの炭材になる木の植林・炭焼きの伝授、沈香樹液の蒸留装置
- ・そしてドイツ林業(日本はお手本にしたい)

経営管理:世界の模範

森林重視、林業への国民的関心が高い、  
共有財産としての意識、森林の散策・森林浴、  
小学校からの森林教育、森林官の職業への高評価

	森林率	森林面積	木材自給率	林業従事者
ドイツ	31%	1100万ha	100%	120万人以上
日本	68%	2500万ha	41%	4.5万人



\*ラオス)植林



\*ドイツ)太い木と実生が入り混じるモミの天然林

◆ 海外に依存している日本 食料 木材

- ・低い日本の食料自給率 37%
- ・オーストラリア 224%、アメリカ 130%、フランス 127%
- ・低い木材自給率 18.2%(2000年)→36.1%(2017年)⇒41.1%(2021年)
- ・水の豊富な日本なのに間接的に水の大量輸入国(他国からみればおかしな国)  
バーチャルウォーター(仮想水)野菜・果実、肉・乳製品、木材等は全て水によって育てられる

☆ 最後に 先生よりの与言葉 教訓で締め括って頂きました。

木は伐らなければ育たない そして、  
使わなければ山に元気は戻らない

主催:  
認定NPO法人かながわ森林ストラクターの会  
森林文化部会  
共催: 神奈川県森林協会  
後援: かながわトラストみどり財団

谷田貝光克氏  
理学博士、東京大学名誉教授、秋田県立大学名誉教授、  
ふるさと精油をつなぐ会代表、農学生命科学研究支援機構  
理事長、日本木酢液協会会長、炭やきの会会長、  
2011~18年フルグラランジェール「香りの図書館」館長  
専門は天然物有機化学



今回の講演、そして10年間の『森のめぐみ』執筆 有難うございました！！

森のめぐみ挿入画のイラストレーター 11期 長尾晴子さんよりのメッセージ(旧姓大塚)  
谷田貝先生、長い間連載ありがとうございました！イラスト担当は、一般の会員よりも少しだけ早く原稿が読めるので嬉しかったです。森のめぐみは科学的な内容を分かりやすく解説していただき、楽しく拝見しておりました。去年は仕事でアロマの勉強をした際も、先生の連載のおかげで知っている植物の成分も多く、公私ともに役立ちました。今回の森林文化公演会を楽しみにしておりました。そしてイラストレーターは短期でしたが、もう一名 15期 加藤優美さんです。

読者の皆様にはかながわ森林インストラクターの会 HP 中の活動の記録会報『森のなかま』の2014年4月号～2024年2月号掲載されている“森のめぐみ”をお読み下さい。

かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp>

## 【自然観察部会】 冬の探鳥会（研修会）

日時：2024年1月6日（土）10：00～14：30 晴れ

場所：和泉川～境川遊水地

参加：21名 L 河西⑮、滝澤⑤、阿部⑧、野牛⑧、内野⑨、松本⑪、松永⑪、上宮田⑪、大原⑬、松石⑬、野村⑭、西岡⑭、埴原⑮、石垣⑮、相澤⑮、久次米⑯、加納⑯、高谷⑰、小俣⑰、藤田⑰、内田⑰

（記、写真 加納 祐美⑯）

正月が過ぎ、震災や航空機衝突事故など大きな災害や事故が重なり、気持ちの切り替えが曖昧にありました。思いは寄せつつ、自分でできる支援をし、自分の歩みは止めずに行こう。新年改め最初の活動は大所帯の参加数でスタートを切りました。



下飯田駅から和泉川へ移動。和泉川は瀬谷市民の森が源流で瀬谷区、泉区を流れ、泉区、戸塚区、藤沢市の境界付近の境川遊水池で境川に合流します。境川は江ノ島付近で相模湾に注ぎます。

和泉川河畔を歩きながら、鳥を探します。河川の枯れた葛や草地に目を凝らし、耳をすませると、アオジがチャッチャッと鳴いています。全体的に黄色っぽくスズメより少し大きいので、見つけやすいです。

ホオジロやウグイス、シジュウカラ、ハクセキレイ、カワウが

翼を広げて乾かしている様子など観察しました。カワウの羽は水を弾かないので、観察に行くと言ってもいい程よく見られる光景です。水を弾かないほうが潜水して魚を捉えやすいとか。天王森泉公園に行く途中の農耕地で猛禽類が飛んでいました。広げた翼が白っぽく、オオタカかな？と思っていたら、講師の河西さんが翼の形が違うとのことではヤブサカ？などと言っていたら、電柱の先に止まってくれました！チョウゲンボウ♂でした！かなり近い距離で長い時間止まってくれたので、大興奮。途中、♀と思われる猛禽と空中で争う？ような様子も見られました。

とても暖かい日だったので、外での昼食は快適でした。俣野遊水池から情報センターに立ち寄り、下飯田遊水池では湧き水が沸いている様子が見られ、とても澄んでいて綺麗なところでした。境川になり、砂礫地でゴミが散乱しているような場所になんとイカルチドリがいました。よく目を凝らさないとなかなか発見できなくて、見たかった鳥に興奮していました。ふっくらしていい可愛かったです。今田遊水池に入ると、お目当のオオヒシクイを探します。キラキラみどり色のヨシガモ

の横をひときわ大きく優雅に泳ぐ姿ですぐにわかりました。天然記念物の大型のガン類です。ロシアのカムチャッカ半島からはるばるやってきます。ヒシを食べていたことから名前がついたそうです。なかなかお目にかかれない渡鳥が見られました。今田管理センターで鳥合わせ\*をすると、39種+外来1種見られて、とても充実し、勉強になった1日でした。



アオジ



チョウゲンボウ

\*鳥合わせ結果：オオヒシクイ、ヨシガモ、カルガモ、ヒドリガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、イカルチドリ、イソシギ、トビ、オオタカ、カワセミ、コゲラ、チョウケンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラバト（外来種）



イカルチドリ

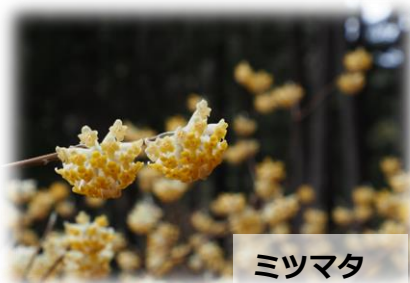


オオヒシクイ

## 森の案内人特別企画 やどりきの森へ行こう！（無料 要申し込み）

### 第3回テーマ 早春に咲くミツマタ観察で春を感じよう

- ・開催日：令和6年3月16日（土） 少雨決行
- ・申込締切：3月2日（土） 受付開始：1月16日（火） 定員：50名（先着順）
- ・場所：やどりき水源林（足柄上郡 松田町 寄）
- ・集合：小田急小田原線 新松田駅北口に8時30分までにお越しください。  
神奈川県森林インストラクターがご案内いたします。  
※新松田駅～やどりき水源林ゲート間はバス送迎となります。  
（バス代は各自負担:片道690円）
- ・帰り：やどりき水源林ゲート 14：30 発 ⇒ 15：10 新松田駅着 解散



ミツマタ



フサザクラ



ダンコウバイ

- 問合せ先＊公益財団法人かながわトラストみどり財団 みどり森林課  
TEL：045-412-2255  
webサイト:www.ktm.or.jp
- 申込み先＊NPO法人かながわ森林インストラクターの会  
E-mail:[k-inst0981@friend.ocn.ne.jp](mailto:k-inst0981@friend.ocn.ne.jp)

参加者全員のお名前、住所、電話番号を記入の上、メールでお申し込みください。  
多数応募の場合は、受付順とさせていただきます。

## 活動短信

今回の掲載はR5年10月21日からR5年11月25日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

3月(弥生)(旧暦2月如月)の

二十四節気と雑節、鳥こよみ

二十四節気 : 啓蟄 3/5 春分 3/20

啓蟄は冬ごもりしていた虫が姿を現しだすころ。動植物が活動を始めます。勿論インストラクターも本格始動!

**鳥こよみ:** 鶯が囀り始めます。藪の中に住むため姿を目にする機会は少ないですが、繁殖期がととても長いため(一夫多妻!), 囀りは晩夏まで聞くことができます。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明  
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。  
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

## ◆ 活動団体・活動名 等

**日** 日付: 令和x年x月x日(曜日)できれば時間と天気も

**場** 場所 (例: 相模原市緑区 長竹継分収林)

**参** 参加者 人数

**県** 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

**財** (公財)かながわトラストみどり財団、**看** 看護師

**ス** 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

**イ** インストラクター① (○数字:期) **研**: 研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします m(\_)\_m

## ◆ NGKフィルテック様 水源林保全活動

**日** 令和5年10月21日(土) 9:45~12:30 晴れ

**場** やどりき水源林

**参** 23名 (大人18名 子供5名)

**イ** L上田⑩、山崎⑦、上宮田⑪、飛田⑮、相澤⑮、内田⑰

お子様5名を含む(23名)の方々が、やどりき水源林を訪れ、林間広場では、カツラの落葉の甘い香りが皆様をお出迎えしました。

今回の内容は、Aコーストレッキング・Bコース散策、癒やし体験、クラフトです。

Aコーストレッキングでは、健脚の参加者(6名)がやどりき水源林のアルプスとも表現できる山岳ルートを歩きました。丹沢の成り立ちや、やどりき水源林の役割に触れると、皆さんそれぞれ自然への思いを発信してくださいました。葉の香りや感触体験、シカやムササビの痕跡を見つけながら森の中を満喫しました。

Bコース散策では、参加者(16名)がビンゴを行いな

がら林内を歩きました。お子様たちはビンゴ完遂のため、まわりをキョロキョロ。早々にチェックを終えていました。またAコース同様に葉の香りや感触体験を楽しんでいただきました。時に立ち止まり、まわりの木々を眺めて林相の違いを実感していただき、森林の役割について理解を深めました。

癒やし体験では、五感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)をフルに働かせることを意識し、スタートしました。始めに参加者(1名)に簡単なインテーク(体調チェック・要望聞き取り等)、血圧測定を行い、森の植物が出す揮発性の化学物質について説明しました。その後カツラの樹の下で寝転び体験、次にハンモック体験をしていただきました。寝転び体験よりも、ハンモックの方が落ち着くとお話されていました。最後に血圧測定をして体験前後の血圧の変化を確認して終了しました。

その後、Bコース参加者も合流し、ハンモック体験をしました。散策後の程よい疲れと体が温まっている事もあり、寒く感じる事はなかったようです。大人の方もお子様もハンモックは気持ちがいいと好評でした。

お子様たちは、クラフトにも挑戦。入念な準備の甲斐があり、限られた時間の中で思い思いの作品を完成させることができました。

全員が広場に戻った後、滝郷の滝でその迫力を体感、木伝導で川音を聞き、クロモジ茶で喉を潤していただきました。

五感を十分に使った貴重な時間を過ごしていただくことができました。

(記・写真 内田 祐子⑰)



## ◆ 県民参加の森林づくり(仙石原植栽)

**日** 令和5年11月15日(水) 8:30~16:30 晴れ

**場** 箱根町仙石原(町有林)

**参** 101名

**財** 豊丸様 藤本様 箱根町役場 古谷様

**看** 佃様

**イ** L上田⑩、滝澤⑤、内野⑨、上宮田⑪、渡部⑫、

古館⑬、松石⑬、大原⑬、野村⑭、西岡⑭、黒川⑭、

小松⑭、石垣⑮、末原⑮、久次米⑯、中澤⑯

朝7時50分小田原駅西口広場にてスタッフミーティングが始まり活動が開始されました。8時から案内・誘導など各々の役割分担に従ってインストラクターを配置し参加者の受付を行いました。

参加予定者の集まりも順調で定刻に仙石原浄化センターに向けてバスを出発させることができました。途中箱根湿生花園でトイレ休憩を取り予定時刻に浄化センターに到着することができました。



現場に到着

向かって歩き始めました。ハイキングコースを50分ほど歩かなければならないため、参加者全員が時間内に移動できるか心配であったが誰一人脱落することなく予定時刻より早く現場につくことができました。



植栽指導

使用する道具類は小田原森林組合の担当者が各班ごとに必要な道具・ヘルメットなどを準備してあったので、現場での注意事項を伝えて各班の作業場所にスムーズに



植栽状況

配置することができました。現場は地形が複雑で区割りの境界を明確に示すことができなかったため作業の取り掛かりでは戸惑いもありましたが植え残しをしないように林道から上に向かって植栽をしていきました。植栽本数は全体で600本、一人当たり6本程度の植栽でしたが時間内にすべてを植栽することができました。道具の片付けをしたのち閉会式を行い昼食の後、浄水センターに向かって下山しました。初めて参加した人たちもいい体験をしたとの感想が多く聞かれました。箱根高原ホテルで温泉につかり定刻に小田原に帰り解散しました。予定時間内にすべてのことを無事終わらせることができました。活動に参加して下さった皆様に感謝！

(記・写真 上田 啓二⑩)

◆ 株式会社 WAKUWAKU 様

間伐、自然観察、クラフト体験

- 日 令和5年11月16日(木) 10:00~15:00 晴れ
- 場 やどりき水源林
- 参 大人22名
- 県 水源環境保全課 佐々木様、黒田様
- イ L 牧石⑭、山崎⑦、高橋⑨、吉田⑪、石垣⑮

【間伐活動】参加者9名は用具倉庫前に移動し、用具の装着を完了したのち後沢前まで林道を移動。やどりき沢を渡り平成19-9成長の森に移動した。間伐場所は傾斜が急なため、作業員2名に対しインストラクター1名が付き間伐作業を交替で行い計8本のカツラの間伐を実施した。間伐終了後は同じルートで倉庫前に戻り、用具の手入、倉庫への返却を行い間伐活動を終了した。



【自然観察】参加者13名、午前の自然観察班はBコースでした。沢の音を耳に歩き始めましたが、見上げる樹木の大きさに感嘆の声が上がりました。木洩れ日を浴びながら進み、



丸太の橋のコケや透明な流れの美しさに皆、魅せられていきました。ヤブニッケイやクロモジの香りを楽しみ、最後は巨木を囲み記念撮影で終了しました。午後は林道コースを進み、山の神の解説・丹沢の成り立ちの説明に驚き、ヤブムラサキの葉の感触に感動し、サンショウの葉・実・果皮を口に入れた皆さんは、その刺激に大興奮でした。

丸太の橋のコケや透明な流れの美しさに皆、魅せられていきました。ヤブニッケイやクロモジの香りを楽しみ、最後は巨木を囲み記念撮影で終了しました。午後は林道コースを進み、山の神の解説・丹沢の成り立ちの説明に驚き、ヤブムラサキの葉の感触に感動し、サンショウの葉・実・果皮を口に入れた皆さんは、その

【クラフト体験】参加9名はクリスマスリース作りを行った。杉の枝を使い最初にクリスマスリースの型作りを行うが、丸い型にまとめるのに最初は苦労されていた。型が出来ると皆様、思い思いの装飾を施され、見事なクリスマスリースが完成し記念撮影が行われた。



(記・写真 石垣 桃栄⑮、牧石 稔⑭)

## ◆ トキコシステムソリューションズ様 第2回「未来につなぐトキコの森」森林再生活動 自然観察、間伐作業

**日** 令和5年11月18日(土) 10:00~12:30 晴れ  
**場** 世附(足柄上郡山北町)  
**参** 5名(大人15名)  
**県** 水源環境保全課 藤原主査、黒田主事  
**イ** L高谷⑩、前田⑪、坂井⑫

前日の天気が大荒れで開催が危ぶまれましたが、当日は良い天気となりました。

自然観察は夕滝を往復。三保ダムや世附の歴史を学び、晩秋にかかった木々の葉や実、森や水辺の鳥などを観察して、紅葉の中に落ちる夕滝を眺めました。間伐班



は前日の雨で足元が悪かったため、やや樹高の低いスギを対象木を変更して作業にかかり、順調に伐倒していただきました。

西丹沢の奥深くで秋の一日を楽しんでいただけたと思います。

(記・写真 高谷 秀史⑩)

## ◆ タカナン癒やしの森の整備、看板整備、森との触れ合い

**日** 令和5年11月18日(土) 10:00~15:00 晴れ  
**場** やどりき水源林  
**参** 参加者 20名(大人20名)  
**県** 水源環境保全課 水源事業グループ 村松様  
**看** 青木様  
**イ** L水口⑨、上宮田⑪、安井⑫

朝は風が強く吹いていましたが、水源林の中は樹々に囲まれているせいか穏やかな空間でした。日差しが暖かさを運び参加者も紅葉と共に高揚されたようです。

タカナン乳業様の癒やしの森での作業はコロナ禍前から4年ぶりとのこと。台風による被害で通行止めの期間もあり久しぶりの活動となりました。インストラクターは経路整備に2名、午後からのスワッグ作りの材料を集めに1名と、三班に分かれ満足を得られるよう安全に配慮しながら作業に入りました。森の整備については、倒木処理と落ち枝



スワッグ作りの様子

の処理を行いながら経路を作る事を目標とし、前後二班に分かれました。何処を進むか分かり易いように、参加者の皆さんと話し合いながら処理した丸太を経路の両側に並べて行きました。気温は10度前後でしたが身体を動かす事で寒さを感じる事もなかったようです。むしろ鋸を使う事で汗ばむほどでした。林内を流れるせせらぎ沿いの倒木も処理され作業前とは見違えるほど綺麗な癒やしの森となり、林道沿いからもその光景が見てとれます。

作業後は新しくなったタカナン乳業様の看板の前で記念撮影を行いお昼休憩に入りました。

午後は、スワッグ作りです。午前中に中津川沿いで集めたスギ、ヒノキ、アスナロ、カラマツ等の枝を使った季節感のあるスワッグ作りの始まりです。インストラクターが準備した松ぼっくりも一役か



森の整備

いきました。作品が完成した後は滝郷の滝で自然のミストを浴び、小枝を使って水の流れる音を聞く木伝導に歓声を上げてい



新しくなった看板前で記念撮影

ました。森の案内人の方が準備してくれたハンモックも体験され、自然に触れ合う癒やしの時間になったようです。環境整備を行いながらお一人お一人が森と共に過ごした一日となりました。

(記 安井 健人⑫、写真提供 タカナン様)

## ◆ かながわ森林インストラクターの会 森林技術部会 2023年度 間伐研修会②

**日** 令和5年11月19日(日) 9:00~15:00 晴れ  
**場** 大野山トチヤの森班活動森林  
**参** 14名  
**イ** 講師：L江上⑬、滝澤⑤、真貝⑪、石井⑮  
受講者：水野⑭、大森⑯、田中⑯、杉山⑰、中鉢⑰、中野⑰、三浦⑰、柳沢⑰、永田⑯、三好⑰

森林技術部会の間伐研修②が、大野山トチヤの森班活動林にて行われました。今回の研修目的は、大径木、高樹高の人工林を対象とした間伐作業が安全に実施、指導できることを目指して行われました。間伐マニュアルに準じて選木、伐倒、かかり木処理、整理までの危険要素及び指導者としての基本技術と指導方法について実践を通じて習得できるように活動しました。

大野山トチヤの森班活動林は、樹齢が30年生から50年生の杉を主体にした森で、手入れが不十分なため、枯損木や生育の良くない杉が多く暗い森です。地質は、スコリアと呼ばれる砂状の土で、崩れやすい斜面となっていました。大径木もありますが、今回の間伐対象は、主に胸高直径20～30センチメートルほどで高さが20メートルぐらいの杉が対象でした。杉は、檜と違って粘りがなく、比較的倒しやすい木です。しかし、高樹高のものが多く、伐倒方向によっては危険を伴うので、注意が必要です。



伐倒方向確認

8時30分に松田駅北口に集合し、現地には9時に到着しました。はじめに統括講師の江上さんから、講師紹介があり、本日の研修について目的や内容の説明がありました。安全目標は、足元注意ということで、スコリアの地面や杉の枝などの障害物に十分気を付けるようにご指導いただきました。また、今回は、講師から指示を待つことなく、自分たちが主体的に考えて伐倒を進めていくことがミッションとして示され、これまでの研修の成果が問われることになりました。



滑車の立ち木取りつけ

準備体操の後、9時30分には、各班に分かれて、現場に行き、実践を始めました。予め選木された杉が4本ずつ用意されていて、それをどのような手順で伐倒処理していくか、班内のメンバーで相談しながら伐倒作業を実施しました。中には倒れ掛かった杉や根曲がりの杉などもあり、伐倒方向を決める受け口の作り方や調整の仕方、追い口を切り進めながらのツルの確認や修正には工夫も必要でした。また、高樹高の杉の木は、倒すときに迫力のある音がして、達成感をみんなで分かち合うことができました。伐倒後は切り口の確認を全員で行い、反省点や気付いたことを話し合いました。ちょっとしたバランスの見落としや受け口の方向の違いなどで、伐倒する方向がずれることも知りました。また、引手のロープの位置なども安全第一で考えなければいけないと学びました。昼食は班毎にとり、和やかな時間を過ごしました。午後の作業は片付けを含めて2時45分までとし、全体の反省会を行って、各班の講師から講評をいただきました。15時には大野山を後にして、解散をしました。



受け口を切る

(記 三好 浩一①⑦、写真 江上 徹⑬)

## ◆ 雪印メグミルク株式会社 海老名工場様 (自然観察・竹林整備)

日 令和5年11月22日(水) 10:00～15:00 晴れ  
場 県立21世紀の森  
参 大人15名  
県 水源環境保全課 宮崎様、藤原様  
イ L牧石⑭、高橋⑨、小国⑰

午前は自然観察、午後は竹林整備活動を行った。

【自然観察】参加者15名は2グループに分かれ、金太郎コース～ドングリコースの順で自然観察を行った。金太郎コース入口に設置されているグリーンウォッチング



コース案内図を使い自然観察コースを説明したのち林間広場へ移動。林間広場では相模湾が一望できる景色を見て皆様感動されていた。ドングリコースではナラガレにより伐採された木の説明、雑木林では人が深くかわかることによって出来た森の説明が行なわれた。ムクロジの木を前に、水の入ったペットボトルに果皮を入れ泡立たせ石鹸の代わりとして利用できる説明後、林道に移動しオニグルミの秋の味覚を味わっていただき自然観察を終了。



コース案内図を使い自然観察コースを説明したのち林間広場へ移動。林間広場では相模湾が一望できる景色を見て皆様感動されていた。ドングリコースではナラガレにより伐採された木の説明、雑木林では人が深くかわかることによって出来た森の説明が行なわれた。ムクロジの木を前に、水の入ったペットボトルに果皮を入れ泡立たせ石鹸の代わりとして利用できる説明後、林道に移動しオニグルミの秋の味覚を味わっていただき自然観察を終了。

【竹林整備】参加者は用具倉庫前で用具装着を完了したのちマダケ展示林まで移動。作業開始前に作業手順の説明、伐採、玉切り、枝払い、集積の見本を見ていただいた後、参加者15名が安全なスペースを確保し一斉に作業に入った。14時30分まで約120本のマダケの伐採を行い現場での作業を終了。用具倉庫前に移動、用具の清掃、整備を行ったのち倉庫に返却を行い無事終了した。



(記、写真 牧石 稔⑭)



## ◆ 神奈川トヨタ自動車株式会社様

## やどりき水源林 秋のレクサストレッキングイベント

日 令和5年11月23日(木:祝) 9:00~16:00 晴れ

場 やどりき水源林

参 650名(子供50名)

県 県水源環境保全課 宮崎様、黒田様

イ L野口⑰、菊地①、井出①、野牛⑧、水口⑨、小笠原⑩、杉崎⑩、上宮田⑪、西出⑫、古舘⑬、牧石⑭、西岡⑭、久次米⑯、岡村⑯、内田⑰、三浦⑰、森本⑰、高谷⑰、田島⑰、藤田⑰

やどりき水源林秋のレクサストレッキングイベントを秋晴れの穏やかな気候の中、ここ数日の寒さもあり、紅葉も見頃となった遊歩道の自由散策で実施した。Aコース午前9時30分から12時30分、Bコース午前9時から13時30分の入山であったが、両方のコースを散策する人も多数いた。広場では、やどりきのちまきや松田町の野菜販売などがあり、山中湖のHAKONIWAのキッチンカー出店や、やどりきのNPOのゆ(ろく)のクラフト、森でのSUP体験の実施など水源林のつどいのような活気があった。

当日のインストラクターの役割は、定点配置と巡回をしながら経路での安全管理と順路説明がメインであったが、トレッキングする参加者への動植物の説明も行った。インストラクターの声掛けによりクロモジの匂い、ヤブムラサキの葉のふさふさ、ムササビの住む樹洞、滝郷の滝などを楽しんで頂いた。

実施後のトヨタ様のアンケート結果では、9割の方が、満足で水源環境保全活動に興味を持っていた。また、参加者のコメントに「ボランティアガイドさん皆さん親切・フレンドリーでとても楽しく過ごせました。」

「コース上の案内の方による説明と安全管理がとても良かった。」「トレッキングは随所で案内役の方々が声をかけてくださり、見どころや楽しみ方森林知識を教えてくださいましたのでいつもの何倍も楽しかったです。」などのコメントを多数頂けた。



(記 野口 忠志⑰、  
写真 神奈川トヨタ自動車株式会社様提供)

◆ いすゞ自動車株式会社様 第8回水源林保全活動  
間伐・径路整備とクリスマスリースづくり

日 令和5年11月25日(土) 10:00~15:00 晴れ

場 やどりき水源林

参 19名

県 佐々木様 秋本様

イ L上田⑩ 山崎⑦ 西出⑫ 小国⑰

寒気の影響で前日より大幅に気温が下がり肌寒い1日でした。10時予定通り林

間広場で開会式を行い午前中の活動が始まりました。カツラの間伐(除伐)班に11名が参加し2班に分かれて成長の森19-9に向かいました。現場は急な斜面ですでに選木されたカツラを伐採し、切り倒された木は午後の経路づくりに利用するため、柵外に運び出し杭材2本とステップ用横木を造材しました。自然

観察班は大人4名と子ども4名で林道コースを子供にもわかりやすいテーマで歩きました。落ち葉を踏みしめるときの音や、目に付くいろいろなものに興味を寄せる子供たちも晩秋の森を楽しみながらの散策となりました。

間伐グループはすぐ上の寄沢の眺望が良い場所で昼食をとり午後は19-9柵内の径路作りを行いました。

クラフトグループは杉枝をベースにしたクリスマスリースづくりを楽しみました。杉枝を円にして、マツカサやどんぐりなどの飾りをつけ赤いリボンを配してクリスマスリースを完成させました。



クリスマスリース作り

男子たちは動きのない作業に退屈したのか広場を所

狭しと走り回っていました。体を使って活動できるようなアクティビティも可能な限り検討してゆくことも必要であると思いました。



集合写真

(記・写真 上田 啓二⑩)

## やどりき水源林ミニガイド

## 「やどりき森の案内人」

森の案内人は3月から再開します。毎週土曜・日曜の午前10時と午後1時から「NPO法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。やどりき水源林ゲート前までお越しください。詳しくはこちらからご覧ください。

<https://www.forest-kanagawa.jp/4field.html>

## 「水源林ニュース」

バックナンバーはこちらからご覧ください。現在今年度最初の3月号を準備中です。

<https://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02>

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>  
(HP担当：森本 利弘)

## ◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫

Mail: [skasai0618@gmail.com](mailto:skasai0618@gmail.com)

Tel : 090-1227-6209

<電子配信会員向け担当>

笠原かずみ

Mail: [happy\\_kumakuma711@icloud.com](mailto:happy_kumakuma711@icloud.com)

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】河西 静夫

Mail: [skasai0618@gmail.com](mailto:skasai0618@gmail.com)

【別冊】小国 一男

Mail: [ka-oguni@ab.auone-net.jp](mailto:ka-oguni@ab.auone-net.jp)

## 編集後記

★ 関東地方に雪が降った日、早い段階で数日後の県民参加の中止の連絡がなされた旨。参加者の安全を第一に考える主催者の判断には、いつも頭が下がります。さて、2月は、樹木医と一緒に三浦市の小松が池周辺で桜を愛で、地元精通している同期のインストラクターと横須賀のYRP野比駅近くの水辺公園も初訪。3月は、横須賀基地の開放行事に行きたかったけど、別件で断念。ただ今、三浦半島探究中です。(小池む)

★ 会報(紙版)の発送に利用していた配送サービスが、最近取り扱い終了となりました。代わりを探していましたが、料金や提供条件を勘案して、当面、郵送にする予定です。「2024年問題」の影響を早々に感じた出来事でした。(小国)

★ 早いものでもう3月です。この冬は、寒くて凍えると感じることがなかったような気がします。2月初め、雪が降った時には、冬を感じて大人気なくワクワクして窓からの景色を眺めていましたが終わりには春を思わせる暖かさが続き、厚手のコートの出番がなくなりました。通勤で通るさくら道で桜の蕾がふくらんでくるのを見つけ、春を近くに感じる今日この頃です。(笠原)

★ これを書いている2月中旬に気温が20度を超え、春を通り過ぎて初夏の汗ばむような陽気でした。テレビでは、「季節外れの暖かさ」を報じていました。四季は、短い冬と長い夏だけになってしまうのでしょうか「季節外れ」は死語になるのか?(黒川)



緑の募金  
シンボルマーク



緑の募金キャラクター  
どんぐりくん・どんぐりちゃん

かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

かながわしずくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。

かながわの水環境の  
保全・再生をめざして

[https://twitter.com/kanagawa\\_sizuku](https://twitter.com/kanagawa_sizuku)

## 年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

便振替口座 00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会  
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人：河西 静夫

広報部：黒川 敏史、松本 保、笠原 かずみ、長尾 晴子、

竹内 明彦、小林 照夫、小国 一男、小池 宗子

支援：大原 正志、吉田 郁夫

## やどりき水源林問合せ：

(公財)かながわトラストみどり財団

TEL : 045-412-2255

FAX : 045-412-2300

<https://ktm.or.jp/>

Mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)

かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp/>

Mail: [k-inst0981@friend.ocn.ne.jp](mailto:k-inst0981@friend.ocn.ne.jp)